

ἐπιφάνεια

エピファネイア

知っておきたいキリスト教のことば (68)

顕現 けんげん

「顕現」とは一般的には神さまが人間の前に現れることをいいます。旧約聖書の中では、アブラハムやヤコブ、イサクの前に現れたり、出エジプトの際のモーセ、あるいは預言者の召命の場面など、イスラエル民族にとって重要な場面で顕現がなされました。

しかし「神さまの顔を見ると死んでしまう」という考えもあったので、神さま自らが現れる場合のほか、夢で神さまのみつげを聞いたり、天使が代わってメッセージを届けたりする場面も見られます。

新約聖書では、イエス様によって神さまがご自分を示していると考えられています。特に「顕現」という言葉は、異邦人に対して神さまが顕現された日を指します。マタイによる福音書 2 章に「占星術の学者たちが訪れる」という記事があります。これは東方から学者たちが星を頼りにイエス様を拝みに来るという日で、この日を聖公会では「顕現日」と呼んでいます。1 月 6 日がその日にあたります。

降誕劇ではイエス様が誕生すると羊飼いたちがやってきて、そのあとすぐに 3 人の博士が贈り物をもってやってくる場面が多く見られます。(3 人というのは聖書には何も書かれていませんが)。しかし教会の暦では、イエス様の誕生と羊飼いの訪問はクリスマスですが、博士が来るのは 1 月 6 日です。そのためクリスマス飾りは、1 月 6 日まで飾っておくのが本来の形です。

なおヨーロッパなど、カトリックの信仰が盛んな地域では、ケーキに豆や小さな人形、貴金属などを入れて、食べた人がそれにあたったらその日一日王様になれるという習慣があるそうです。

また、スペイン語圏、ポルトガル語圏、イタリアなどでは、クリスマスプレゼントは顕現日である 1 月 6 日にもらうそうです。もし 12 月 25 日に準備し忘れたら、言い訳として使ってはいかかでしょうか。

次回は「原罪」です。楽しみに。



「東方三博士の礼拝」

シャルル＝アンドレ＝ヴァン＝ルー
1705～1765 年

家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。

(マタイによる福音書 2 章 11 節)

